

**【表紙】**

**【提出書類】** 内部統制報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の4第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成22年6月23日

**【会社名】** 日本ゲームカード株式会社

**【英訳名】** Nippon Game Card Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山田 明

**【最高財務責任者の役職氏名】** -

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区渋谷三丁目28番13号  
渋谷新南口ビル

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長山田明は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により、財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成22年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

財務報告に係る内部統制の評価は、当社の財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価結果を踏まえ、また、全社的観点から評価することが適切な決算財務プロセス評価に加え、重要性の高い業務プロセスを対象としております。

業務プロセスの評価手続は、内部統制の整備及び運用状況の有効性を適正に評価できる方法を選定いたしました。財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を各業務プロセス別に分析・識別した上で、当該統制上の要点について記録の検証、関連文書の閲覧、関係者への質問などの方法を採用しております。

業務プロセスの評価範囲は、財務報告の信頼性に及ぼす質的及び金額的影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。事業拠点は、売上高の概ね2 / 3の割合に達している事業拠点を重要な事業拠点として選定し、当該重要な事業拠点における当社の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、財務報告への影響を勘案し、重要性の高い勘定科目に係る業務プロセスも個別に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点における当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。